

保育実習におけるモチベーション変動について
—モチベーションを変動させる要因の分析—

西 村 重 喜

The Change of Motivation in Nursery Student teacher Internship
: Analysis of Factors That Change Motivation

Shigeki Nishimura

豊岡短期大学 論集

第 15 号 別 冊

平成 31 年 3 月 31 日 発 行

保育実習におけるモチベーション変動について

—モチベーションを変動させる要因の分析—

The Change of Motivation in Nursery Student teacher
Internship : Analysis of Factors That Change Motivation

西村 重喜

Shigeki Nishimura

はじめに

近年、保育所待機児童が社会問題として注目されており、内閣府は、待機児童の解消に向けて平成25年度から5年間「待機児童解消加速化プラン」を推進してきた。¹⁾平成30年度からは新たに「子育て安心プラン」を展開している。²⁾³⁾いずれのプランでも保育士の人材確保に関する取り組みが重視されており、厚生労働省は「保育士確保プラン」を策定するなど、「新規保育士の増加」と「離職保育士の再就職促進」を目指している。⁴⁾⁵⁾

「離職保育士の再就職促進」が推進される背景には、20歳代の保育士の高い離職率がある。「第3回 保育士等確保対策検討会」の参考資料によると、保育士として就労していない保育士資格取得者は24歳以下38.7%、25～29歳56.7%に及んでいる。⁶⁾

一方、全国各地の保育士養成校では、「卒業後、保育士以外の職に就く学生」が生じることが課題となっている。「第26回保育士養成実習施設と保育士養成校との研究懇談会」では「多くの学生は、保育実習を通して保育士になる意欲を高めるが、一部の学生は保育実習によって意欲を喪失し、保育士を目指すことを断念する。保育士として就職しても、早い時期に離職することがある。保育実習が第一のフィルター、就職が第二のフィルターになっている。脱落をしないように支援することが保育士養成校の課題かもしれない」旨の発言があった。「卒業後、保育士以外の職に就く学生」の割合を明らかにした統計的な資料は見当たらないが、一部の学生が保育実習によって意欲を喪失することは、本学においても実習終了後の学生との面接から実感できることがある。

「第3回 保育士等確保対策検討会」参考資料が示す「保育士における現在の職場の改善希望状況」によると、給与の改善(59.0%)、職員数の増員(40.4%)、事務・雑務の軽減(34.9%)、未消化(有

給等) 休暇の改善 (31.5%)、勤務シフトの改善 (27.4%)、職員間のコミュニケーション (20.3%) などが大きな割合を占めている。⁶⁾これらの項目のうち、学生の個性によっては実習期間中に体験する「職員間のコミュニケーション」の影響は無視できないと推測する。

そこで、「保育実習」や「就職」が意欲を低下させ脱落(進路希望を変更する、離職する)を招くことがあるなら、個性に応じた対応力を育むことによって脱落の抑制に寄与できると考え、図1のモデルを想定した。このモデルの出発点は「意欲を左右する要因の分析」及び「コミュニケーション力を左右する要因の分析」である。

今回の研究では、このモデルの構築に向けて「意欲を左右する要因の分析」を行うため、保育実習中(「保育実習Ⅱ」及び「保育実習Ⅲ」)のモチベーション変動を個別に調査するとともに意欲を左右する要因を調査・分析することとした。

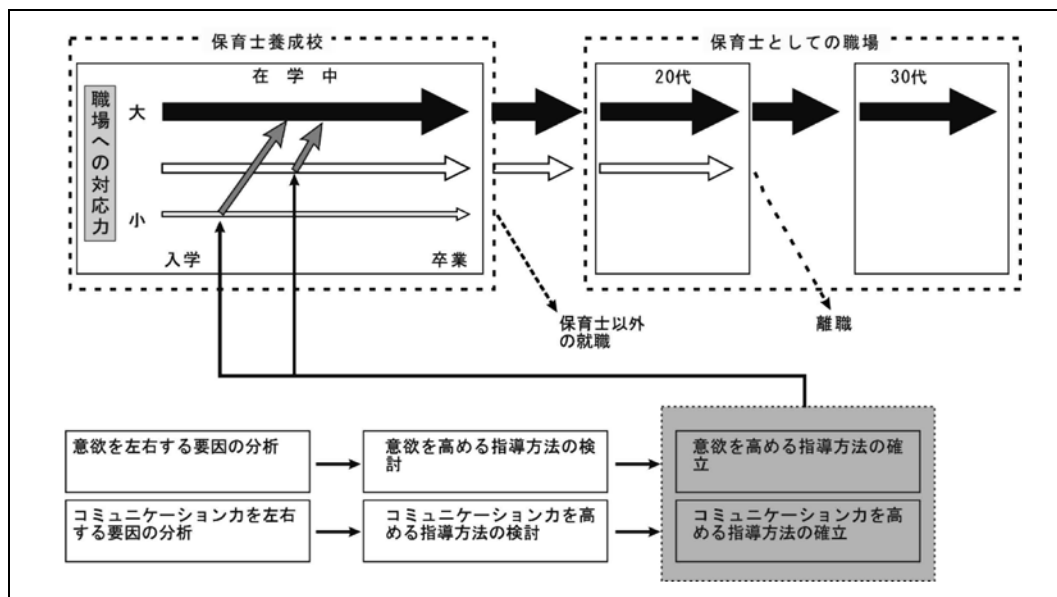


図1 職場への対応力を育むための取り組み

方法

保育士を目指す学生にとって実習をふり返り課題を明確にすることは重要である。その指導の手法の一つとして、松山洋平(2016)は実習中のモチベーションに着目することを紹介している。山川宏和(2017)は、京都華頂大学の学生を対象とした実習期間中のモチベーションの変化を調査し、その結果を報告している。この報告では、調査対象となった実習生集団のモチベーションは、施設の違いに関わらず、実習の初日から最終日に向けて上昇することが示されている。

本学においても同様の傾向が予想されるが、モチベーションの変化と要因との関係性を個別に把握するため、「個別のモチベーション変動を可視化しやすくすること」「適切な回答項目を用意すること」「回答時の煩雑さを少なくすること」「特記事項を収集しやすくすること」「集計しやすくすること」、「集計結果を分析しやすくすること」を念頭に、独自の設問用紙、回答用紙、集計システムを考案し調査を行った。

調査方法 設問用紙（図 2）、回答用紙（図 3）を用いた記名式アンケート

※アンケートの取り扱いについては、回答用紙に明記し学生への周知を図った。

調査対象 A 県 B 市 C 短期大学 平成 30 年度 2 年生

保育実習Ⅱ履修学生 15 名、保育実習Ⅲ履修学生 9 名

実習期間 平成 30 年 8 月中の 10～11 日間（実習開始日は実習先によって異なる）

実習場所 保育実習Ⅱ（保育所・認定こども園：A 県内 11 名、A 県外 4 名、計 15 名）

保育実習Ⅲ（児童養護施設・乳児院・知的障害児入所施設・重症心身障害児入所施設：
A 県内 6 名、A 県外 3 名、計 9 名）

調査時期 保育実習Ⅱ履修学生 平成 30 年 10 月 4 日（木）「保育実習指導Ⅱ」

保育実習Ⅲ履修学生 平成 30 年 9 月 27 日（木）「保育実習指導Ⅲ」

実習期間 平成 30 年 8 月中の 10～11 日間（実習開始日は実習先によって異なる）

集計方法 ・Microsoft Excel2016 で個別シートと集計用シートからなる集計用ブック（ファイル）

を実習種類（保育実習Ⅱ、保育実習Ⅲ）毎に作成

- ・上記ブック個別シートに回答を入力（図 4） ※ 1 シートに 1 名分入力
- ・集計用シートに自動集計（図 5）

分析方法 次のようにグラフ作成により収集データを可視化し、データ抽出を行った。

- ・集計用シートの処理

モチベーション値（集団）のグラフ化（折れ線グラフ）

「要因」別出現頻度のグラフ化（折れ線グラフ）

「要因」内訳のグラフ化（円グラフ）

- ・個別シート毎の処理

モチベーション値（個人）のグラフ化（折れ線グラフ）

モチベーション値（個人）変動時の＋要因、－要因の抽出

「実習中のモチベーション変化」アンケート

下記の設問に回答して下さい（回答は回答用紙に記入して下さい。）。

設問1

実習に対するモチベーション（実習に対する意欲）を実習前から実習最終日まで1日ごとにふり返し、0～5の数値で表現して下さい。

0～5の数値は、下表「モチベーション段階表」を目安に決定し、回答用紙の「モチベーション値」欄に記入して下さい。

「モチベーション段階表」

モチベーション値	目 安
5	意欲に満ちていた（不安はなかった）
4	高い意欲があった（わずかな不安はあった）
3	かなり意欲があった（多少の不安はあった）
2	少し意欲があった（意欲が不安を上回っていた）
1	かなり意欲を失っていた（不安が意欲を上回っていた）
0	全く意欲がなかった

（記入上の注意）

- ・1日目～12日目の「モチベーション値」欄には該当日の実習終了後の値を記入して下さい。
- ・実習期間中に休日があった場合は、「モチベーション値」欄に「休日」と記入して下さい。
- ・実習終了日より後の「モチベーション値」欄（（例）10日目で終了した場合は11日目、12日目）には斜線を記入して下さい。

設問2

モチベーションを高めた要素を下記選択群から選び、「プラスの要素」欄に記号を記入して下さい。（複数回答可）

（選択群）

- A 園児（利用者）と心の通ったコミュニケーションが図れた。
- B 保育者（職員）からの指導、助言に励まされた（「褒められた」を含む）。
- C 部分実習（研究保育）が円滑に行えた。
- D 園（施設）の業務の流れにそって、自分がなすべきことを考えられるようになった。
- E 準備した指導計画（手遊び、工作など）で園児（利用者）と共に楽しむことができた。
- F 初めての経験（行事、課題を含む）を前に、気持ちが高揚していた。
- G その他（「園児（利用者）から頼りにされた」、「新しい発見があった」などを含む）。
- H プラスの要素はなかった。

※G「その他」を選択した場合は、『その他』の概要欄に概要を記入して下さい。

設問3

モチベーションを低下させた要素を下記選択群から選び、「マイナスの要素」欄に記号を記入して下さい。（複数回答可）

（選択群）

- ア 園児（利用者）とコミュニケーションが図れなかった（「暴言を受けた」を含む）。
- イ 保育者（職員）の助言内容が厳しかった（「口調が厳しかった」「内容が厳しかった」を含む）。
- ウ 部分実習（研究保育）が円滑に行えなかった。
- エ 園（施設）の業務の流れがつかめず、自分がなすべきことが考えられなかった。
- オ 準備した指導計画（手遊び、工作など）で園児（利用者）と共に楽しむことができなかった。
- カ 初めての経験（行事、課題を含む）を前に、不安を抱いていた。
- キ その他（「備品を壊した」、「器具、道具を正しく使えなかった」などを含む）。
- ク マイナスの要素はなかった。

※キ「その他」を選択した場合は、『その他』の概要欄に概要を記入して下さい。

図2 アンケート設問用紙

「実習中のモチベーション変化」アンケート 回答用紙

() 年 学籍番号 () 氏名 () ※枠内は記入必須

	モチベーション値 (0～5)	プラス の要素 (番号)	「その他」の要素	マイナス の要素 (番号)	「その他」の要素
前日					
1日目					
2日目					
3日目					
11日目					
12日目					

↑ 休日があった場合は「休日」と記入して下さい。実習終了日後の欄には「斜線」を記入して下さい。

※このアンケートは研究調査のみに使用し、それ以外には使用しません。また、回答者が不利益にならないよう、回答項目の内容に関しては匿名性を果たせるよう配慮します。

図3 アンケート回答用紙

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R
1	日	モチベーション値	＋要素								－要素							
2			A	B	C	D	E	F	G	H	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク
3	0	3								1								1
4	1	2								1	1					1		
5	2	0								1	1	1		1		1	1	
12	9	4	1	1		1		1										1
13	10	4	1			1	1											1
14	11																	
15	12																	
16	13																	
17																		

図4 集計用個別シート

	A	B	C	D	E	F	G	H	I	J	K	L	M	N	O	P	Q	R
1	日	モチベーション値	＋要素								－要素							
2	日		A	B	C	D	E	F	G	H	ア	イ	ウ	エ	オ	カ	キ	ク
3	0	1.8	0	0	0	0	0	1	1	8	0	0	0	1	0	7	0	2
4	1	2.4	0	3	0	1	0	4	1	2	3	0	0	4	0	5	0	1
5	2	2.4	1	2	0	2	0	2	0	1	3	2	0	4	0	2	2	2
13	10	4.1	5	2	1	2	3	2	2	0	0	0	1	0	0	1	0	8
14	11	4	0	0	1	1	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	2
15	12	5	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
16	13																	
17																		

図5 集計用シート（モチベーション値は平均値、＋要素・－要素は合計値とした）

結果

モチベーション値の変動

「保育実習Ⅱ」「保育実習Ⅲ」とともに、集団全体の平均値は実習最終日に向けて意欲が上昇する傾向を示した(図6)。個別の変化については、傾向の類似性に着目して6類型に分類した(表、図7)。

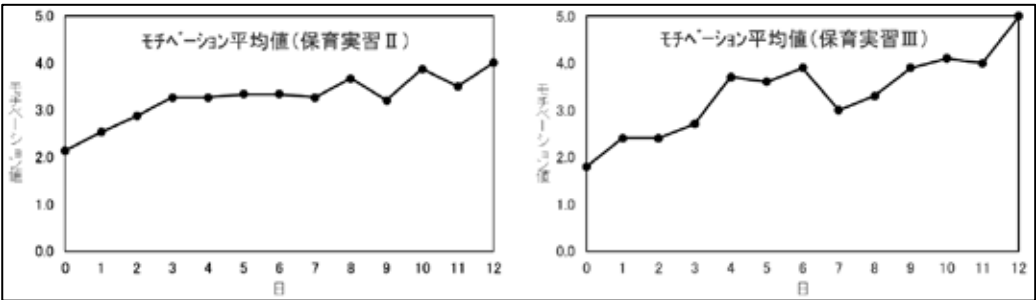


図6 保育実習Ⅱ・保育実習Ⅲにおける実習生集団のモチベーション変化

表 保育実習Ⅱ・Ⅲにおけるモチベーション変化の類型

モチベーション変化の類型	保育実習Ⅱ	保育実習Ⅲ
類型1：多少の変動はあるが実習期間を通して意欲が高い	1名(6.7%)	0名(0.0%)
類型2：順調に意欲が上昇する	6名(40.0%)	2名(22.2%)
類型3：上下変動を伴いながら意欲が上昇する	5名(33.3%)	5名(55.6%)
類型4：上昇した意欲が徐々に低下する	1名(6.7%)	2名(22.2%)
類型5：上下変動を伴いながら意欲が低下する	1名(6.7%)	0名(0.0%)
類型6：初日から意欲が乏しく、実習中に意欲の上昇が認められない	1名(6.7%)	0名(0.0%)

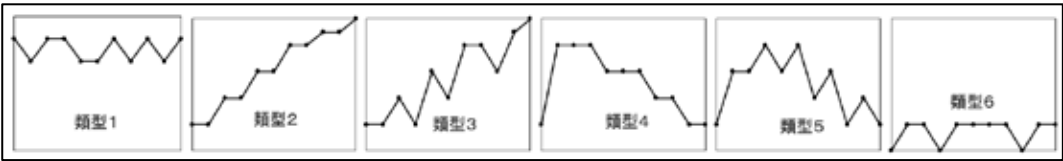


図7 モチベーション変化の類型(グラフ)

「要因」の内訳

日ごとの「要因」の内訳は、単発的なできごとに左右される可能性がある。そこで、影響を低減させるため連続する3日間を対象(実習初期(1～3日目)・実習終期(8～10日目))として比較を行うこととした。

(1) 保育実習指導Ⅱ 実習初期の「+要因」は「園児と心の通ったコミュニケーションが図れた」

「保育者からの指導、助言に励まされた」の合計が 54%を占めた（図 8）。実習終期になるとこれらの要因が占める割合は 38%に減少したが、実習前半には体験できなかった「部分実習（研究保育）が円滑に行えた」「準備した指導計画で園児と共に楽しむことができた」が占める割合が 29%に及んだ。

「園の業務の流れにそって、自分がなすことを考えられるようになった」は実習期間中を通して 19%程度を占めた（図 8）。

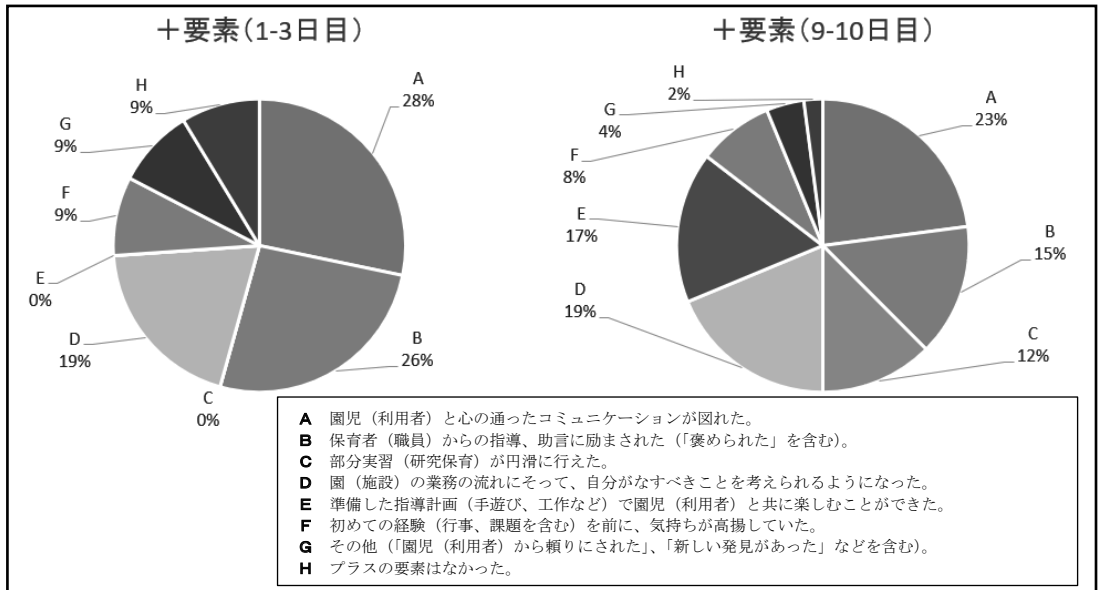


図 8 保育実習Ⅱにおける「+要因」が占める割合

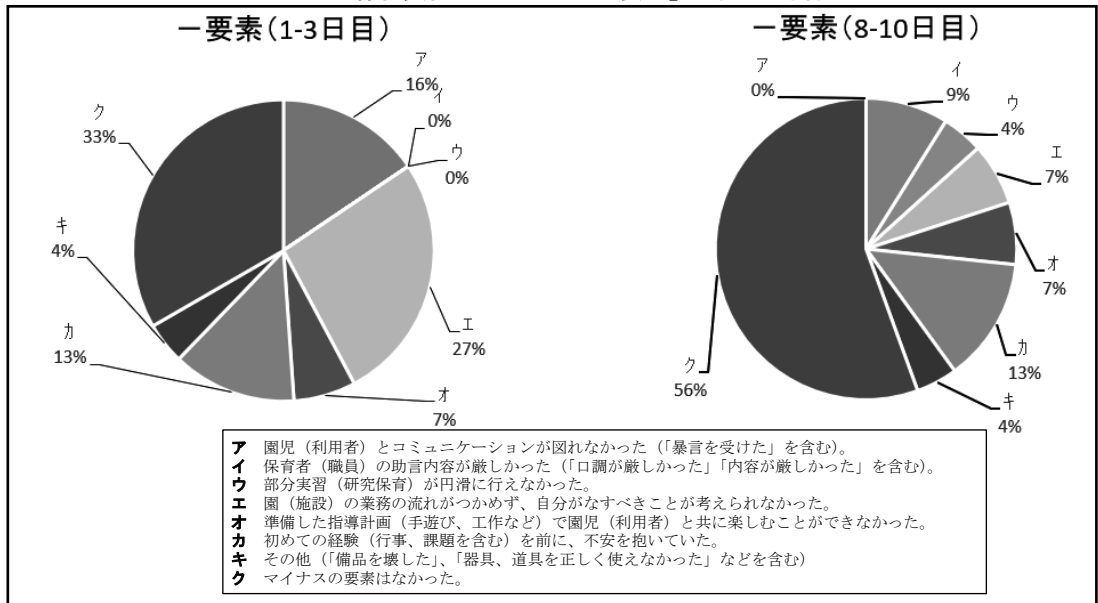


図 9 保育実習Ⅱにおける「-要因」が占める割合

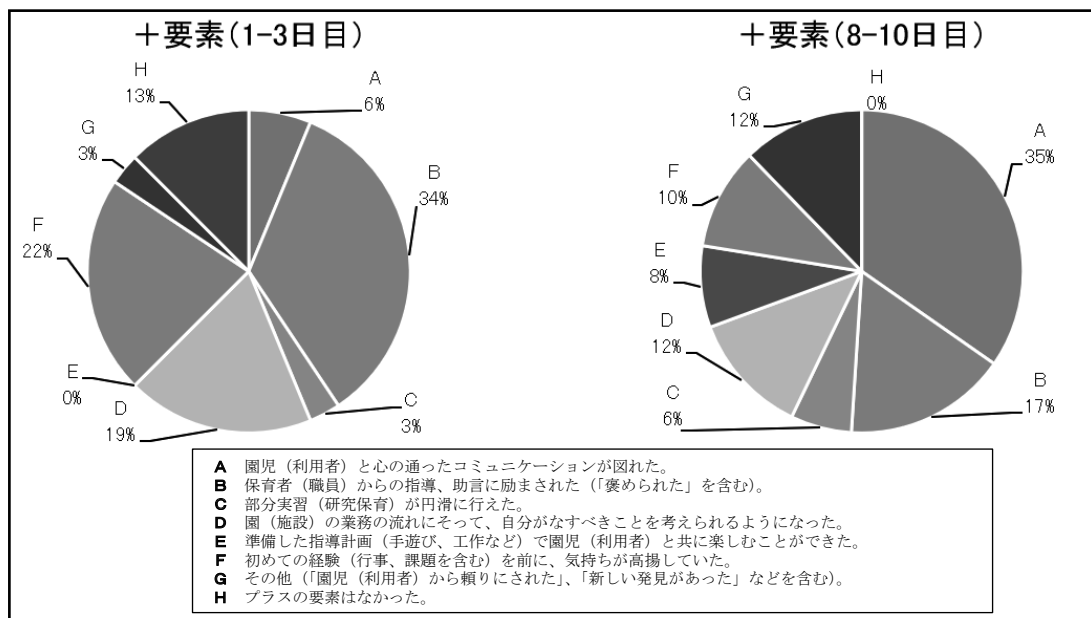


図 10 保育実習Ⅲにおける「+要因」が占める割合

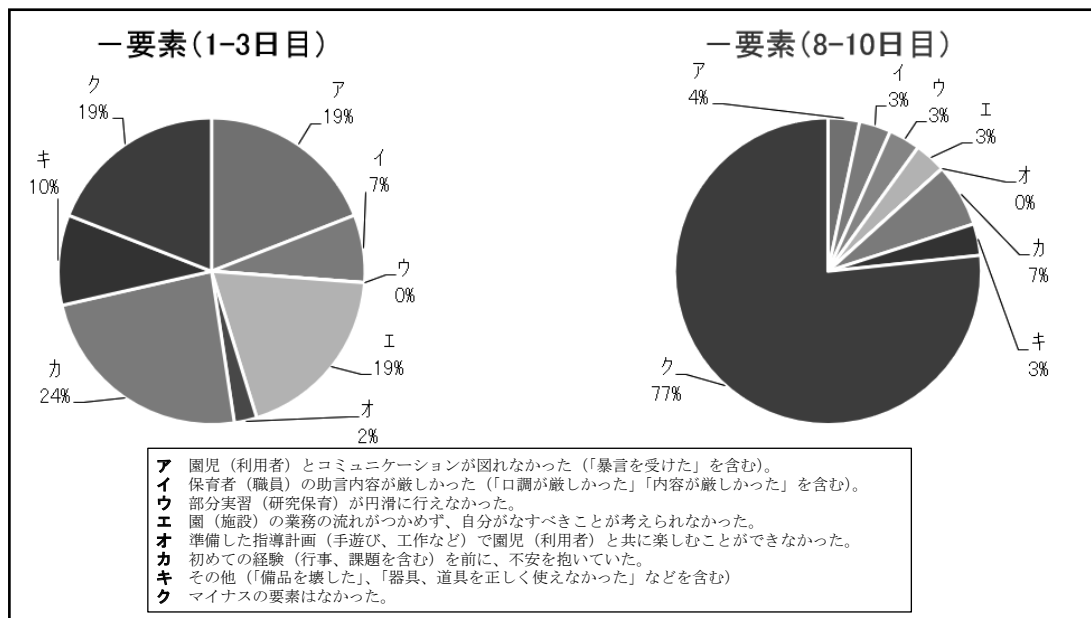


図 11 保育実習Ⅲにおける「-要因」が占める割合

実習初期の「-要因」は、「園児とコミュニケーションが図れなかった」「園の業務の流れがつかめず、自分がなすべきことが考えられなかった」の合計が 43%を占めたが、「マイナスの要素はなかった」が 33%に及んでいた（図 9）。実習後期では、「マイナスの要素はなかった」が 56%に増加する一

方、実習前期になかった「保育者の助言内容が厳しかった」「部分実習（研究保育）が円滑に行えなかった」が少ない割合ではあるが現れた（図 9）。

(2) 保育実習Ⅲ 実習初期の「＋要因」は「職員からの指導、助言に励まされた」が 34%に及ぶ一方、「利用者と心の通ったコミュニケーションが図れた」は 6%と少なく、利用者との対応に戸惑いながら実習が始まるが、徐々にコミュニケーションが図れるようになり、実習終期になると 35%に増加している。（図 10）

実習初期の「－要因」は、「初めての経験を前に不安を抱いていた」が 24%に及んでいるが、実習終期になると大幅に減少している。また、実習初期には 19%だった「マイナスの要素はなかった」が実習終期の 77%に増加している。（図 11）

(3) モチベーション変化の類型 4・5・6 の「マイナス要因」 意欲が上昇しなかった学生、意欲が上昇したのに低下した学生のモチベーション値が落ち込んだ当日の「マイナス要因」は、「準備した指導計画で園児と共に楽しむことができなかった」「施設の流れがつかめず、自分がなすべきことが考えられなかった」「保育者の助言内容が厳しかった」であった。

考察

今回の調査・分析における対象集団の規模は小さく、特異な傾向の回答があると全体の平均に影響を及ぼす可能性が高いことを踏まえ、次のように考察した。

- ア 園児（利用者）とのコミュニケーションを通して、意欲が増加する傾向がある。
- イ 保育者（職員）からの指導、助言が、意欲を左右する可能性がある。
- ウ 実習生の個性によっては、特定の－要因がきっかけとなって実習期間中に回復できないほどに意欲を喪失することがある。
- エ 保育実習Ⅲにおいては、利用者との円滑なコミュニケーションの構築がモチベーションに大きな影響を与えている傾向がうかがえる。
- オ 準備した指導計画の成否が意欲を左右することがある。
- カ 部分実習や研究保育は、準備がストレスになることが多く、成否は一時的に意欲を左右することがある。

以上に対応する資質は、「保育実習指導Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」をはじめとする関係科目並びに地域との交流を通して培っているところであり、今後の工夫により、対応力を高めることができると考える。とりわけ、オとカは手遊びや歌などのレパートリーを増やしたり、指導計画の立案経験を積んだりすることで実習生の力量を高めるよう指導が展開されているところである。

今回の調査・分析は、実習生の主観に依存しており客観的な外的要因が加味されていない。分析時に、別途得られる情報を付加して客観性を高める方法を検討したい。

また、入学から卒業までの間の意欲変化を把握できるよう、「保育実習Ⅰ」を調査対象に加えるように努めたい。

引用文献

- 1) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課. (2013). 待機児童解消加速化プラン. 厚生労働省.
([https:// www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/pdf/taikijidokaisho_01.pdf](https://www.mhlw.go.jp/bunya/kodomo/pdf/taikijidokaisho_01.pdf)) (2018年10月10日23時31分)
- 2) 首相官邸. (2017). 子育て安心プラン. 内閣府.
(<http://www.kantei.go.jp/jp/content/20170602plan01.pdf>) (2018年10月10日23時32分)
- 3) 首相官邸. (2017). 6つの支援パッケージ. 内閣府.
([http://www.kantei.go.jp/jp/headline/taikijido/pdf/ plan2.pdf](http://www.kantei.go.jp/jp/headline/taikijido/pdf/plan2.pdf)) (2018年10月11日11時23分)
- 4) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課. (2015). 保育士確保プランの公表. 厚生労働省.
(<https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11907000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Hoikuka/0000070942.pdf>)
- 5) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課. (2015). 保育士確保プラン. 厚生労働省.
(<https://www.mhlw.go.jp/file/04-Houdouhappyou-11907000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Hoikuka/0000070945.pdf>)
- 6) 厚生労働省雇用均等・児童家庭局保育課. (2015). 保育士等に関する関係資料. 厚生労働省.
(https://www.mhlw.go.jp/file/05-Shingikai-11901000-Koyoukintoujidoukateikyoku-Soumuka/s.1_3.pdf) (2018年10月11日11時41分)

参考文献

- 松山洋平. (2016). 事後学習:実習の振り返り. 山本美貴子・松山洋平(編), 実習ステップブック (p. 135). みらい.
- 山川宏和. (2017). 4年生大学における(施設)保育士養成・育成の現状と課題. 第26回保育士養成実習施設と保育士養成校との研究懇談会資料(pp.5-9). 京滋奈保育士養成協議会.